

行政視察レポート

令和7年4月22日(火)～24日(木)

産業建設委員会

今回の視察先

① 東京都千代田区(高見・舞立・青木・三浦事務所)

- ・ 農業、水産業、港湾の課題等について地元選出国會議員と意見交換

② 山梨県甲府市

- ・ 甲府城周辺地域活性化実施計画、こうふ亀屋座（現地視察）について

③ 栃木県宇都宮市

- ・ 水道局直営のヤシオマス「ストロベリーサーモン」の養殖について

■派遣委員

川上 幾雄・村木 勝也・大谷 学・小川 稔宏・佐々木 豊治・牛尾 昭

①地元選出国會議員との意見交換

■日時 令和7年4月22日（火）13：00～15：00

■場所 衆議院議員会館及び参議院議員会館

（高見事務所、青木事務所、三浦事務所、舞立事務所）

■目的

- ・浜田市における産業建設委員所管課題について意見交換を行う

■意見交換相手

- ・高見康裕衆議院議員
- ・青木一彦事務所秘書
- ・三浦靖事務所秘書
- ・舞立昇治事務所秘書

①地元選出国會議員との意見交換

ア 水産振興について

[意見交換の内容]

- ・ 交付金等様々な支援制度がなされているが、民間事業者は対象外。
- ・ 施設の老朽化が進み陸上機能の低下が課題となっている。
- ・ 人口減少や水揚量の減少などにより財政状況は厳しい。
- ・ 問題解決には民間活力を生かした取組が必要。
- ・ 民間企業が活用可能な事業の拡充が必要。

【回答】

- ・ 魚種の変化については理解しており、現在ある資源をどのように活用するか水産庁とも検討している。

①地元選出国會議員との意見交換

イ 重要港湾浜田港について(1/2)

[意見交換の内容]

- ・コンテナ取扱岸壁の水深が8.5mと浅く、近年の大型船化に対応できていない。
- ・現状岸壁延長では同時接岸は難しく、船舶の寄航が減少することを危惧している。
- ・ふ頭用地も狭く、増加する取扱貨物の置き場に困窮している。
- ・船舶大型化に対応する岸壁等港湾機能の強化に向けた早期の整備が必要。
- ・現在進めておられる新北防波堤の引き続いての事業推進が望まれる。

①地元選出国會議員との意見交換

イ 重要港湾浜田港について(2/2)

[意見交換の内容]

【回答】

- ・ 浜田港は国・県において工法を検討し詰めめの段階になっている。最新情報を調査して報告する。
- ・ インフラ整備で港湾として土俵に立てるようにしたい。
- ・ 浜田港は、防災・国防の観点から考えており、東日本大震災時のくしの歯作戦で活用したことは例として挙げられる。
- ・ 防波堤を延伸する予算は進捗を含めて確認しており、他議員とともに進めていく。

①地元選出国會議員との意見交換

ウ 中山間地域の農業振興について

[意見交換の内容]

- ・これまでの加算措置である集落機能強化加算が廃止された。
- ・新たに農村RMO事業の活用を勧められているが、1自治体1地区の採択などの理由から要望した集落が不採択となり、継続集落も要望額が大幅減額された。
- ・条件不利農地の維持には、そこに住み続けることが必要であり支援は重要。
- ・集落機能強化につながる支援策や予算の充実が必要。

【回答】

- ・農業と土地改良については多様な方から依頼があり理解している。

①地元選出国會議員との意見交換

エ その他意見交換内容

[意見交換の内容]

- ・ 今後5年間の国土強靱化事業予算について
- ・ 島根県立大学周辺の整備について
- ・ 矢原川ダム本体工事の着工時期について
- ・ 下水管老朽化への対応について
- ・ 中山間地域等直接支払制度について
- ・ 小規模農家、兼業農家について

①地元選出国会議員との意見交換

委員会の考察

- ・市の現状を認識している市議会議員による国会議員に対しての意見交換や地元の現状を伝える機会は重要であるため、定期的の実施すべき。

②山梨県甲府市

甲府城周辺地域活性化実施計画、こうふ亀屋座

■日時 令和7年4月23日（水）9：30～11：40

■場所 甲府市役所、甲府市歴史文化交流施設「こうふ亀屋座」

■視察の目的（選定理由）

文化や歴史を生かしたまちづくりの先進地として、浜田駅周辺エリアにおけるにぎわい創出に係る考え方や実現の方策、郷土資料館や文化小ホールに関して現地を調査する。



②山梨県甲府市

甲府城周辺地域活性化実施計画、こうふ亀屋座

[視察先の概要]

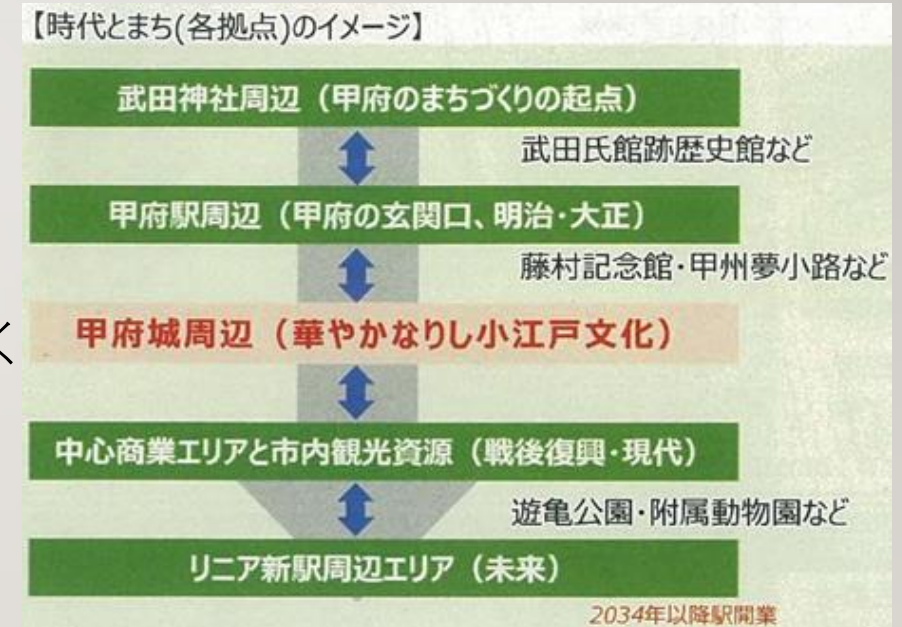
- ・ 人口は185,088人（令和7年4月1日時点）、面積は212.47km²。
- ・ 山梨県のほぼ中央に位置し、市域は南北に細長く北端は長野県に接地。
- ・ 甲府市は山梨県の県庁所在地であり県内で人口最多の中核市である。
- ・ 平成31年には戦国武将武田信玄公の父・信虎公が躑躅ヶ崎に館を構え、甲斐の府中「甲府」が誕生してから500年を迎えた。
- ・ 直近の合併は平成18年3月1日（旧中道町・旧上九一色村北部地域）。

②山梨県甲府市

○小江戸甲府 城下町整備プラン（令和4年6月）

ア プランの策定背景

- ・ 2019年に開府500年を迎えた長い歴史がある。
- ・ 7キロ先には、リニア新駅の設置が予定されている。
- ・ 甲府開府500年を契機とした「未来につなぐまちづくり」として、甲府が紡いできた重層的な歴史・文化を感じながら周遊・交流できるまちを次世代に継承していく。
- ・ 中心市街地の活性化を重点的に行っており、市長の思いである「歴史とみらいにつなぐまち」を具現化するもの。

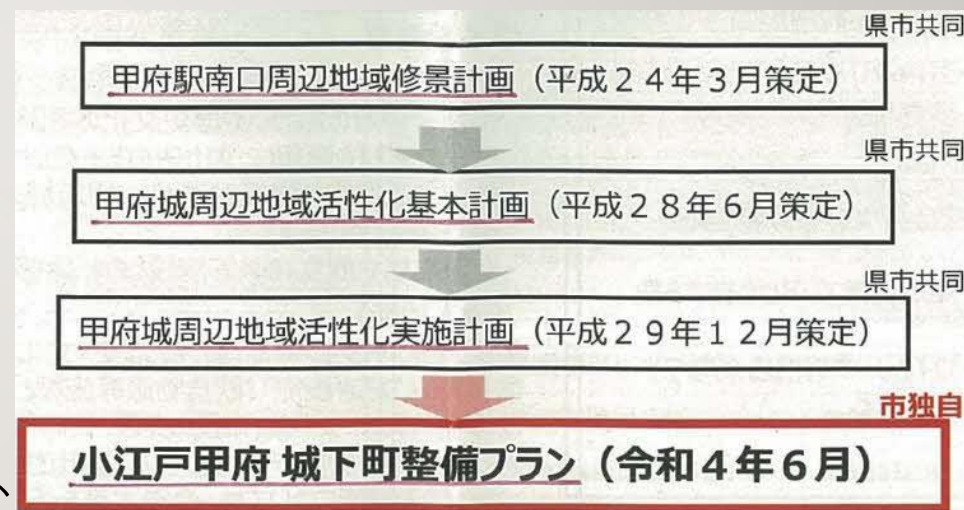


②山梨県甲府市

○小江戸甲府 城下町整備プラン（令和4年6月）

イ プランの位置付け

- ・「城下町整備プラン」は「甲府城周辺地域活性化実施計画」のアクションプランである。
- ・県の副知事と市の副市長がトップとなり、関係各課、商工関係者、有識者（都市計画、歴史、観光、地元自治会、商店会など）のほか、アンケート、ワークショップ整備のアイデア募集などで市民・県民の意見を取り入れて計画を策定。
- ・平成24年から計画をじっくり練り、実現に向けて進んできた。

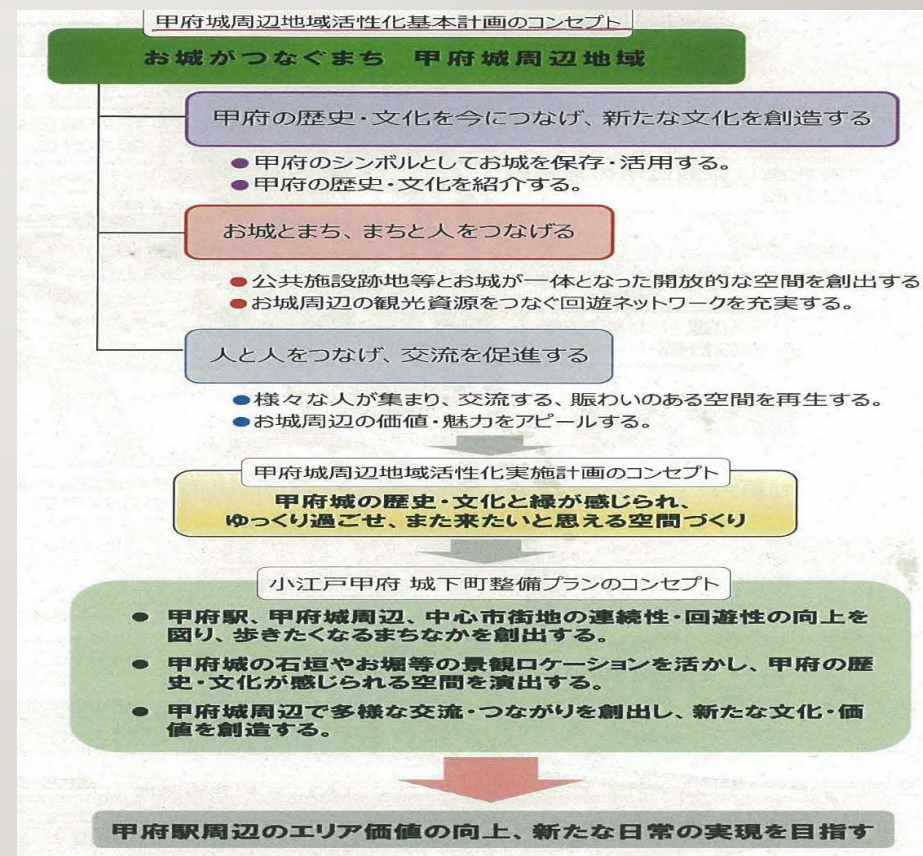


②山梨県甲府市

○小江戸甲府 城下町整備プラン（令和4年6月）

ウ プランのコンセプト

- ・「つなぐ」「つながる」が重要なキーワードとなっている。
- ・このコンセプトをベースとして、甲府駅周辺のエリア価値の向上、新たな日常の実現を目指す。



②山梨県甲府市

○小江戸甲府 城下町整備プラン（令和4年6月）

エ プランの期間

- ・ 令和6年度まで。令和7年度に「交流施設」「交流広場」「散策路」等の各施設の供用開始を目指す。
- ・ 令和7年4月19日にオープン。



②山梨県甲府市

オ プランの対象区域

- ・対象区域を広く策定し、徐々に絞り内容を具現化していく。
- ・今回の視察対象は図の赤丸部分。



②山梨県甲府市

○小江戸甲府 城下町整備プラン（令和4年6月）

カ 全体整備概要(1/2)

- ・なぜ建設部ではなくまちづくり部なのかは、これからの時代においてインフラが老朽化する中で、造ったものを使うではなく**使う視点を持って造る**ことが重要ではないかということで、ハードとソフトにおいて使う側の視点を持つことから「まちづくり部」とした。
- ・国（税務署）や県、市の土地を活用した。
- ・企業へのサウンディング調査を地道に行い、計画を策定した。

②山梨県甲府市

○小江戸甲府 城下町整備プラン（令和4年6月）

カ 全体整備イメージ(2/2)

- ・ こうふ亀屋座は甲府市で初めて**DBO（設計・施工・運営）方式**を取り入れた（運営者が使いやすい施設を設計・施工する）。
- ・ 花小路のお店は民間資金で建てられ運営されている。市は、土地を貸している。土地のオーナーは市であるが、建物は民間活力を最大限に生かす方針。
- ・ 用地買収、更地整備、亀屋座整備に要した費用は13.2億円

【内訳】 国庫補助金5.8億円、起債2.3億円

一般財源0.9億円、クラウドファンディング4.2億円（寄附額は6億円超）

②山梨県甲府市

19

甲府城南側エリアの整備について

こうふ亀屋座（甲府市歴史文化交流施設）

◆概要

「華やかなりし小江戸文化を中心に甲府の歴史・文化を感じ、交流し、つないでいく歴史文化交流施設」をコンセプトとし、資材の一部に県産木材を利用するとともに、随所に梁や柱を見せることで、木の雰囲気を感じられる空間としています。かつて甲府が賑わっていたころにあった亀屋座という芝居小屋をイメージ。

◆構造

木造2階、延床面積：499.35㎡

◆演芸場（多目的ホール）



1階観覧席から見た舞台



2階観覧席（さじきせき）

＞1階・2階合わせて120人程度が観覧でき、寄席や音楽などの演芸の観覧のほか、歌や踊りの発表など、多様な文化芸術の発信の場として活用できます。
＞芝居小屋の雰囲気を出すため、1階は升席とすることも可能。

◆多目的室（全5室）

＞物販や展示、モノづくり体験のワークショップのほか、若手起業家のチャレンジショップなど、様々な用途に使用ができます。
＞演芸場と一体的に利用することで大規模な展示等にも対応可能。



多目的室外側



多目的室内側



外側看板

◆レンタサイクル

＞水素自転車3台、電動アシスト付き自転車12台を設置。



水素燃料電池電動アシスト付き自転車

◆給水スポット



＞御遊野仙峽など豊かな自然の恵みに育まれた甲府のおいしい水をPRします。

◆ワインサーバー



＞地元のワインを中心に、グラス1杯から楽しめます。

※画像はイメージです。



交流広場

◆概要

＞円形ステージと階段状のベンチがあり、様々なパフォーマンスを披露する場として利用できるほか、マルシェなどのイベントが開催できます。
＞四季の移ろいを感じられる樹木を植え、椅子やテーブルを設置し、ゆったりと過ごせる憩いの場を提供します。



円形ステージとベンチ



遊亀橋から見た交流広場



交流広場（南）

小江戸甲府花小路（飲食物販等施設）

◆概要

江戸時代に栄えた甲府城の城下町をイメージ。季節感を感じながらゆったりとお店をめぐり歩くことができます。

◆構造・棟数

木造2階 9棟

＞運営会社
株式会社タンザワHD



②山梨県甲府市

○小江戸甲府 城下町整備プラン（令和4年6月）

【交流施設】

施設テーマ・・・甲府城と市内の各拠点をつなぐ施設

施設コンセプト・・・華やかかなりし小江戸文化を中心に甲府の歴史・文化を感じ、交流し、つないでいく「歴史文化交流施設」

～甲府の豊かな歴史・文化が感じられる場、「観光客」や「市民・県民」が集い、多彩な交流が創出される場～

- ① 甲府城を中心として城下に栄えた小江戸甲府の歴史・文化の発信をはじめ、まちなみや演芸等の交流により、当時の雰囲気や賑わいを今に伝える施設整備を行い、来訪者が江戸時代を基調とした空間に触れながらくつろぎ、ゆったり過ごせる場を提供します。
- ② 本市の観光資源や地場産業等の情報を発信することで、関連エリアやスポットをつなぎ回遊を促進します。

②山梨県甲府市

○小江戸甲府 城下町整備プラン（令和4年6月）

【交流広場】

施設コンセプト ……多様な交流を生み出す「オープンスペース」

- ① 甲府城及びエリア(C)の散策路とつながる園路を整備するとともに、園路東側の交流施設として活用する部分を除くエリアを、観光客及び市民・県民が集い、憩い、賑わいのあふれる空間として整備します。
- ② 中心市街地への回遊を促進させる機能とともに、多様な交流を創出するためのイベント等も開催できる多目的スペースとして活用します。
- ③ 各種イベント及び市民の活動や発表等、多目的な用途に対応できるスペースとしての設備を設置します。

【散策路】

施設コンセプト ……小江戸甲府の趣が感じられる、「城下町散策路」

- ① 甲府城、エリア(C)、「オリオンイースト」及び中心市街地をつなぐ歩道を整備します。
- ② まちの回遊性向上及び賑わいの創出を目的として、道路空間のオープン化などの活用を検討します。

②山梨県甲府市

○小江戸甲府 城下町整備プラン（令和4年6月）

【飲食物販等施設】

- ① 散策路部分以外の公有地は、民間事業者への貸付用地として、民間の資金やノウハウ、技術等を活用することにより飲食物販等施設の整備・運営を行い、新たな交流や賑わいの創出を目指します。
- ② 貸付については、「**甲府城公有地利活用事業**」として、プロポーザルにより事業者を公募するものとし、最も優れた提案のあった事業者と基本契約及び賃貸借契約を締結します。
- ③ 飲食物販等施設は、江戸風の建築意匠として、甲府城の城下町が栄えていた頃の情緒あふれるまちなみの形成※を目指します。

②山梨県甲府市

委員会の考察

- ・浜田市においては歴史・文化を加味した浜田らしさ（城下町浜田、日本遺産石見神楽等）を生かした周辺活性化を検討されたい。
- ・三桜酒造跡地活用に向けては、民間事業者へのサウンディング調査や市民へのアンケート調査などを行い、関係事業者や市民に望まれる施設となることを期待する。また、施設は幼児から大人まで、様々な世代の利用を想定し設計されたい。さらに、三桜酒造跡地の設計・施工・運営の委託方式はDBO方式も含め検討の必要がある。特に、運営においては、将来にわたる費用も考慮し、長期的な計画で進められたい。

③栃木県宇都宮市

○水道局直営のストロベリーサーモン養殖

■日時 令和7年4月23日（木）9：30～11：00

■場所 宇都宮市上下水道局白沢浄水場

■視察の目的（選定理由）

浜田市における陸上養殖の推進に向け、上下水道局による養殖に先進的に取り組まれている宇都宮市の事業を学び、当市の取組の参考とするため。



③栃木県宇都宮市

○水道局直営のストロベリーサーモン養殖

[視察先の概要]

- ・人口は510,448人（令和7年4月1日時点）、面積は416.8km²。
- ・栃木県のほぼ中央に位置し、東京から北へ約100kmの距離にある。
- ・市域の南北には東北新幹線や東北自動車道が、東西には北関東自動車道などが市内を貫き、北関東の中核拠点となっている。
- ・直近の合併は平成19年3月31日（上河内町と河内町）。

③栃木県宇都宮市

○水道局直営のストロベリーサーモン養殖

ア 事業概要

- ・近年水道使用量が減っており、水道水の水質の良さをPRするための取組。
- ・水道使用量減の原因は人口減少、ペットボトルやウォーターサーバーの利用など。
- ・市の浄水場の試験池を活用しており、水道水は年間を通じて水温が一定で養殖に適している。川の水だと冬は水温が低く夏は高い。
- ・令和6年1月に200gのヤシオマス（栃木県のブランド魚）を100匹購入し、生育目標を2～3kgとしスタートしたが、先日3kgに到達した個体も出てきたが個体差はある。



③栃木県宇都宮市

○水道局直営のストロベリーサーモン養殖

イ 特徴

- ① モンドセレクション金賞を受賞した泉水（浄水場の源水）を使用しており、年間を通して水温が15℃前後と一定でマス類の養殖に適している。
- ② 栃木県水産試験場が開発したブランド魚「ヤシオマス」を使用し、短期間で大きく成長する。
- ③ 特産であるいちごを近隣農家から無償提供してもらい、いちごを添加した餌を利用している。いちごにはビタミンCとポリフェノールが含まれ、魚が健康に育つが、味への影響は不明。



③栃木県宇都宮市

○水道局直営のストロベリーサーモン養殖

ウ 事業経過

- ・令和6年1月に事業をスタートし、令和6年末には2kgの約60匹を水揚げ。
- ・第2期として、令和7年3月にもう一つ監視用の池を作り200匹の養殖を開始。
令和7年5月に3kg到達予定。
- ・他の養殖場に比べ成長が早く、1年間で販売できる大きさの2kgに到達し、
メディアによる取材や視察などでPRに寄与した。
- ・病死した魚はほとんどなく、健康に育った。
- ・今後はブランド価値向上のマーケティングを進め、3kg到達を目指す。



③栃木県宇都宮市

委員会の考察

- ・産業建設委員会の所管ではないが、水道水の水質PRのために養殖を活用するという視点は斬新なアイデアであると感じた。このようなアイデアを生かした事業の導入可否を検討する。
- ・宇都宮市の水道水をモンドセレクションに応募され、金賞を受賞されている。浜田市の特産品等に付加価値を与える観点から、各種認証制度への出品に対する助成制度創設の必要性について検討する。
- ・地元の素材を生かした養殖事業の可能性を学んだ。浜田市において、例えば温泉水を活用した養殖の事業化の可能性を模索する。